



ぶちばら文庫

対魔忍
taimarin
asagi

アサギ

著|蝦沼ミナミ
絵|カガミ

Presented by





序 章	エンゲージ	5
第一 章	人魔来る	13
第二 章	アサギ新生	48
第三 章	肉宴の供儀	88
第四 章	くノ一無惨	122
第五 章	花の散るらむ	170
第六 章	闇に還る	206
終 章	テイキング・オフ	240

ドアノブを握るような無造作な手つきで、臙の手が私の乳房を掴んだ。それと同時に胸の奥で快感が爆発し、痺れるような感覚が全身に広がってゆく。

「くあああああああつ……お、臙おおつ……!!」

臙は私の乳房を掴んだまま、乱暴に引つ張った。

全身を異常な快感に支配された私は、それに逆らうこともできない。膝からガクガクと力が抜け、床の上に転がされてしまった。

「がんばってご奉仕するのよ。みんなあなたのために、わざわざ来てくれたんだから」

「誰が生殖猿のオーク共に……汚らしいっ」

「だからいいんじゃない。上手くいけば、あなた、仔オークのママになれるのよ」

「ふざけないでっ!」

「あら、いやなの? それは残念ね」

怒りをむき出しにしながら答えると、臙は呆れたように言いながら、オークたちに向き直った。

「アサギは、お前たちの相手をするのはイヤだそうよ。仕方ないわね……今日は変わりに、さくらちゃんのほうでがまんしてくれる?」

その言葉が、私を凍りつかせた。そうだ……今、さくらもこの女に囚われているんだ。臙は、私を苦しめるためならどんな手段も厭わない。私の目の前でさくらをオークどもの

慰み者にするぐらい、平気でやってのける女だ。

「まって……さくらには手を出さないでっ!」

思わず漏れてしまった懇願の声。

それを聞いた臙が、愉悦と侮蔑の交じり合った表情で私を見下ろしていた。その視線に射られながら、私は唇の端をギュッと噛んだ。

「わ、私を、好きにしていから……だから、さくらだけは……!」

はじめから、選択肢なんてなかったんだ。私が途切れ途切れに言うと、臙はうなだれた私の頭に、軽く指先を乗せた。

「お作法もわかっていないのね。こういう時、いやらしい牝豚のオマンコに皆様のザーメンをお恵みください……ぐらい言えないの?」

キイン……! 添えられた指先から、私の頭に衝撃が走る。

まるで頭と身体の接続を切られてしまったかのよう。手足が勝手に動き出し、床に跪かされる。

「あなたバカだから奉仕の仕方もしらないでしょう? 私が見てあげるから、しっかり覚えるのよ?」

道場で仕込まれた、あの催眠術だ。臙の術は、私の心の奥深くに複雑に絡みついている。手足はおろか、指一本すら思うように動かせない。そればかりか。臙の術に逆らおうとい

う気持ちすら、深い霧の向こうに消えてゆく……。

「おほっ！ 俺、アサギをグチャグチャにしてやりたいってずっと思ってたんだよ」

「お、オデも、オデも……」

「俺もだっ！ けっけけ」

一斉にオーク共が私の身体に群がってくる。

「結構、あなたって人気者だったのね。さあ、奉仕の基本、フェラチオよ。そのお口で、彼らのチンポを満足させてあげなさい」

臃が目で合図をすると、オークたちは私を取り囲み、いきり立ったペニスを目の前に突き出してきた。

オークのペニスにはごつごつしたイボがあり、龟头部からは透明な汁が次々とあふれ出ていた。

垢と体液とを何日もかけて蒸らしたような、ひどい異臭が漂ってくる。ほとんど風呂になど入らない彼らのペニスを舐め清めろというのだ。

「嫌がつてもだめ。抵抗しても、催眠術で無理矢理にでもさせるわよ」

「ぐ、う……」

歯を食いしばって、臃とオーク共への怒りを必死で堪えた。

「ちゃんとオーク共の言うことを聞きなさい。もし満足させられなかったら……？」

臃が脅すように冷たく笑った。

もし私が十分に奉仕できなかったら、オークたちの獣欲はさくらへと向かう。大切な妹が、この汚らしいペニスで犯されるなんて……！

さくらの顔を思い浮かべながら、おずおずと唇を開く。そのほんの少しだけ開いた隙間を強引にこじ開けながら、オークのペニスが口内に侵入してきた。

「んぶっ!! う、ウゲウッ！」

「さあ、あなたの口マンコで何十回、このブタ共を射精させられるのかしら？ さくらちゃんを守りたいのなら、ちゃんといっつらの金玉を空っぽにしてあげるのよ！」

カウバー汁が潤滑液となり、イボだらけのペニスが唇をすべりながら深々と突き刺さる。「さあて、一番手だ。気持ちよくしてもらうぜ？ 対魔忍のアサギ様よお！」

「ぶぐあ！ あ、あぐうう……っ！」

口の中があつという間にオークの臭いでいっぱいになり、自然に唾液が溢れ、涙がにじみ出す。

「おいおい、唾えているだけかよ、下手くそ！ 舌でチンポを舐め回すんだよ！」

普段の卑屈な態度の裏返しだ。こいつらは強い相手にはどこまでも媚びへつらうが、逆らえない相手には居丈高になる。

「んぐ、う……くうっ……」

だが、私に逆らう術はなかった。ぴちゃ……くちゅ、れろろっ……懸命に舌を使つて、口内のペニスに奉仕する。汗のような塩味、アンモニア臭、さまざまな体液が混ざった有機臭……不快な感覚が口腔を埋め尽くし、吐きそうになる。

周囲から突き刺さる好色そうな視線。

今まで頭があがらなかった対魔忍が、仲間のペニスに口で奉仕しているのだ。奴らにしてみれば、これほど愉快な見世物はないだろう。中には順番が待ちきれないのか、勝手に自慰を始めている者すらいる。

だが私に咥えさせているオークは、どこか不機嫌そうだった。やがてそいつは私の髪を乱暴に掴み……。

「もつと気合入れてしゃぶりやがれ！ このテク無しのクソ女があ！」

ごつつ、という音と共に、イボだらけのオークの先端が喉奥に突き刺さる。

私の不器用な愛撫に耐えられなくなったのだろう、オークは私の頭を掴み、激しく腰を振りたててきた。

「んごつつ、ごつつ……んぐ、くつつ……げふっ……！」



じゅぽつ、じゅぽつ、じゅぽつ、じゅぽおっ……！ 繰り返し私の口を突くイボだらけの男根。相手の女のことなど全く考えていない一方的な腰使いだった。一突きごとに喉肉を挟まれ、食道の奥にまでペニスが入り込んでくる。

「おほっ！ さすが対魔忍の口マンコだ。テクは並以下だけど、肉の具合は最高だぜ！」
 オークの高笑いが調教室内に響く。周囲の観客たちも、順番を待ちかねてイボ肉棒を必死で擦りあげていた。

「あっえああっ!!」

喉が破けるかと思うほどの衝撃と痛みに身震いする間に、オークは二度三度繰り返し腰を打ち付けてきた。

「オラ、オラッ、オラッ!! どうした!? 対魔忍?」

「がは！ えぶ！ えうう！ あぐうう!」

「いいぞ、喉奥でチンポを吸えよっ!」

首ごとへし折りそうな勢いの、激しいピストン運動。喉奥に嵌ったペニスに呼吸を遮られて、目の奥のあたりがギチギチと痛む。酸素を求めて鼻で大きく息を吸うと、オークのむせ返るような肉棒の匂いが鼻孔をくすぐった。

「ふふ、嫌がっていたクセにじゅるじゅる音立ててチンポ咥えているじゃない」

臍がすぐそばで嘲っているけれど、今の私にはその声もうるに耳に入らない。オークの

腰遣いは激しさを増すばかりで、ペニスと喉の粘膜がせめぎ合う音が、頭蓋に直接響いてくる。

「うぐうっ！ うごお！ んごお……!!」

オークの腰使いは止むことなく、勢いが増していく。激しいイラマチオのせいで、まともにも声も出せない。

「歯あ立てんや？ 噛みついたらどうなるかわかっているだろうな!」

店での意趣返しとばかりに、ことさらに腰を突き出し、ペニスの先で私の喉肉を殴る。それでも、耐え続けるしかなかった。吐き気に与え、咳を我慢し、後から後から湧いて出る先走り汁を飲み下す。

「そろそろ出して変わってくださいよっ、兄貴。俺達、もう我慢できねっすよ!」

「わかっているって、口マンコでいくぞ！ 出さず、しっかり飲み干せよ……!」

「ぶげう！ んんぐ!」

喉奥を激しく突かれ、上向いた私の喉に絶頂が間近いオークの亀頭が荒々しく進入してくる。

「こ、これだ、喉チンコにぶっかけるぞ、オラっ!」

「あははっ、美味しそう。ほら、遠慮しないでご馳走になきなさい!」

びゅぶりゅるるるるるるう！ イボペニスが口内を跳ね回り、尿道口から吐き出された

汚液がびちゃびちゃと口の中を侵した。

「おい、まだ飲みこむなよ！ こぼすなよ！ そのまま小便器みたいに口を大きく開けるんだ。俺のザーメンがよく見えるようにな！」

精液が口いっぱいになり、べったりと絡みつく。吐き出したい。でもさくらのことを思えば、素直に従うしかなかった。

「うあ、あ、えああ……」

唾液と精液で、口の中がたぶたぶになる。

私は素直に口を開き、その白濁した口内の池を彼らに晒した。行き場の無い舌が池の中を泳ぎ、二種類の体液をゆつくりと攪拌する。

「そのまま口を開けてるよ。うひっ、ずいぶん出たもんだな！」

粘液が糸を引くのをそのままにしながら、私は自分に吐きかけられた屈辱にひたすら耐えていた。なんだか、舌や頬粘膜がじんじんする。顔が熱くなり、目が潤み、頭がぼうつとしてくる。

「よし、飲みこんでいいぞ。おまえら、交代だ！」

「んごお……ん、んくっ」

私が、喉を鳴らして口内の液体を飲み下した。それと同時に、無数のペニスが私の顔めがけて殺到する。

「んっ、あ、ああ……こんなにたくさん無理……押し付けないでっ……」

カウパー塗れの亀頭が、頬や唇にくっくも押し付けられた。にゅるにゅるした塊が顔の上を滑り、そのたびに「ああんっ……」とはしたくない声を漏らしてしまう。

身体中がひどく敏感になっていた。

オークの精液には催淫作用がある。改造済みの肉体に媚薬精液が染みこみ、私の性本能が暴走していた。まるで下腹部に二つ目の心臓ができたかのよう。子宮が刺激を欲しがって、ビクン、ビクン、と痙攣している。

「いい顔してやがる。ザー汁が脳みそに回ってきたな」

オークの中の一匹が、私の目の前でペニスを扱き始めた。

「ああ……良かったじゃない。今度は、シャワーを偷しさせてもらえみたいよ」

臍の言葉に促されて、他のオークたちも、自分のペニスを握り締めた。カウパー液が進り、細かい飛沫がいくつも飛んでくる。

「一度でいいから、その顔を俺のザーメン汁で溺れさせてみたかったんだよ！」

「ああ。あいつが兄貴の店に来るたびに、犯してえって思ってたもんな」

奴らはめいめいに腰を突き出し、私の肌や髪の毛をペニスで小突き回した。

私が吐息を漏らしたり、喉を鳴らしたり……何かするたびに、オークたちはどよめき、熱心にペニスを擦りたてる。あの対魔忍アサギを汚している……きつとそう思うだけで快

感が増すのだろう。彼らの興奮は異常に高まり、ペニスから目に染みるほどの湯気が立ち上っていた。

「ああ、出そう、出そうっ！」

「俺もだ、俺も！ 顔に出してやるからな」

「目え瞑るなよ！ 眼射してやるからなっ！」

男根の先端が膨張し、イボとイボの間を走る血管がビクビク脈動している。

きつとこれが、射精の前兆なのだろう。まるでこめかみに拳銃を押しつけられているような感覚だった。数秒後の自分の運命を予感して、逃げだしたくなってしまう。

「うおおおおお！ 出るうううう！」

オークどもが口々に叫び、大量の精液が私目がけて放出された。

「いやあああああつ！」

頬を打ち据える鞭のように。

頭上から降り注ぐ雨のように。

一直線に突き刺さる槍のように。

あらゆる方向、あらゆる角度から精液が浴びせられ、私を汁塗れにする。「顔面シャワー」なんて俗語では足りない大量射精。髪、眼、鎖骨、耳たぶ、臍、胸元、うなじ、喉……バケツをひっくり返したような白いスコールが、私の上半身がべとべとにする。

「ひどいつ、もうやめて……んぐっ!! あ、

やらあ……けほっ、お、溺れるっ……」

口を開けば、今度はそこを目掛けて精液が飛んでくる。

「オカズにしてもらえてよかったわねえ、オナペットのアサギちゃん！ 女王様気取りで蔑んでいたオークどものザーメンを顔面で受けるのって、どんな気分？」

臍が、惨めな私をあざ笑う。

だがその声も、よく聞こえなかった。耳の穴にまで精液を注がれたのかもしれない。

「えうう、うう、ふぐうう……!!」

声を上げてても、身をよじつても、それは奴らを喜ばせることにしかない。顔中にネットリと絡む精液を拭うこともできず、私はその屈辱にただ耐えていた。時間が経つにつれて粘性を失っていく精液が、改造された快



ぶちばら文庫
たい ま にん
対魔忍アサギ

2011年 10月28日 初版第1刷 発行

■著 者 蝦沼ミナミ
■イラスト カガミ
■原 作 LILITH

発行人：久保田裕
発行元：株式会社パラダイム
〒166-0011
東京都杉並区梅里2-40-19
ワールドビル202
TEL 03-5306-6921

印刷所：中央精版印刷株式会社

本書の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などを行うことは、
かたくお断りいたします。

落丁・乱丁はお取り替えいたします。

定価はカバーに表示してあります。

©MINAMI EBINUMA ©2011 LILITH

Printed in Japan 2011

PP030

BlackLilith 対魔忍シリーズ最新作
通常版が、
いよいよ発売!

2011.11.11

DVD-ROM版/2,980円(税込)



母のため、無法都市ヨシハラへ……
潜入せよ! 対魔忍ユキカゼ!

BLACK
LILITH
www.lilith-soft.com

対応機種: Windows2000/XP/vista/7 日本語版
※ 885E、Me は動作確認はしていますが、製作保障するものではありません

好評発売中

クズどもが!! 私の誇りと身体を汚すなんて…

絶対に許さない!

昼夜逆転する淫らなパワーバランス

美しき女士官には、アヘ顔任務がお似合いだ!

ぶちばら文庫14

布施はるか 著

カガミ 画

LILITH 原作

定価 670円(税込)

監獄戦艦

～非道の洗脳改造航海～

 ぶちばら文庫
creative

それでも 水着は 脱がさない!

Soredemo
Mizugi
Ha
Nugasanai!

好評発売中

偶然当たった沖縄旅行。憧れの水無瀬まどかにつきあい始め、幸せ絶頂だった康祐は、迷わず決意を固めた。この旅行中に、まどかと初エッチをするのだ。だが、行きの機内で出会った陽子に初体験を手伝ってもらったことで、ふたりの旅行は誘惑の連続になってしまった。意外と巨乳だったまどかの水着姿に感動しつつ、大人な陽子にも惹かれる康祐は、水着エッチの毎日!

ぶちばら文庫23
玉城琴也 著
珈琲貴族 画
定価 670円(税別)

真夏の天使たちよ…
脱いじゃダメ!
絶対!

催眠シリーズ第3弾!

ぶちばら文庫22

春風菜 著

水原優・蜜キング 画

Parthenon 原作

定価 670円(税込)

魔眼カメラに心を奪われ、
言いなりに自慰する美処女の記録…。

好評発売中

写し撮れば、
少女を支配する!

Temptation
NAKED

デニブレーション
ネイキッド

ぷちぱら文庫は ライター&イラストレーターを募集中です!

「ぷちぱら文庫」シリーズを盛り上げる、新たな作家を募集いたします。「ぷちぱら文庫」は、ゲームノベライズだけでなく、オリジナル創作による美少女小説も刊行予定です。

応募規定は、それぞれ以下ようになります。

皆様のご応募をお待ちしております!

1. 募集内容

「ぷちぱら文庫」シリーズでは、美少女ゲームやライトノベルを好む読者層へ向けた作品作りを目指しています。ご応募いただく場合も、ヒロインの個性や魅力が伝わるようなもの、シチュエーションへのこだわりが感じられるものなど、はっきりしたテーマのある作品でお願いいたします。題材はとくに限定していません。発表済か、未発表作品かも問いません。

2. 送付方法

小説の場合は、テキストデータをメールでご応募ください。コミックやイラストは、原稿用紙をお送りいただいても、データをお送りいただいても結構です。データが5MB以上の場合は、ファイル転送サービスなどをご利用ください。コミックには枚数の規定はありません。小説は1ページを17行×40文字として、50ページ以上の作品をお送りください。

3. 選考結果などについて

メールでご応募いただいた場合は、着信のご連絡は必ず行っています。選考は随時行っており、締め切りはとくにございません。選考終了後、採用の方へのみ別途お返事をしております。通常はお返事までに、2週間～1か月ほどお時間がかかります。

4. 作品の送付先

ご郵送の場合は下記住所までお送りください。メールでのご応募は以下のアドレスで受け付けております。どちらの場合も必ず「お名前、年齢、ご職業、ご住所、電話番号」を書いた紙を同封するか、明記してください。
メールの宛先: desk@parabook.co.jp

〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-19 ワールドビル202
株式会社パラダイム 「ぷちぱら文庫作品応募」係

※ご応募の際の個人情報、選考結果のご連絡にのみ使用いたします。

作品のご返却を希望の場合は、宛名を書いた返信用封筒と切手を同封してください。